

おはよ



兵庫県障害児学校教職員組合（障教組）

神戸市中央区北長狭通5丁目2-10

高教組内 Tel:078-341-6745

2019年3月号（全職員配布）

職場ニュースから

芦屋特支分会ニュースより

阪神地域に「新たな学校設置も検討」

2月県議会本会議にて、森脇県議の質問に西上教育長が「増設を基本としながらも、適地があれば考えたい」と答弁しました。「ゆたかに署名」でも求めてきた阪神地域（阪神、芦屋、こやの里特支）の過大・過密解消への一歩になるかもしれません。東播地域でも、過密と教室不足は深刻です。教育条件整備の声を、さらに強く大きく上げていきましょう！

姫路聴覚特支分会ニュースより

2019年度実施の兵庫県採用試験 「年齢制限廃止」2月21日発表

組合は青年部を中心に、「経験豊かで能力がある人を年齢で制限するのは県にとってマイナス」と訴えてきました。神戸市も同様の動きになります。近年、全国的に受験者が減っています。学校のブラックな労働実態が広く伝わり、敬遠されているとも考えられます。



「健康関連用品」
（正職員のみ配布）
ってなんだ？

秋の組合県交渉で教員の過重労働に関連して「健康増進をはかる目的で」と回答を引き出したものです。

えっ？17時に保育所迎えが1時間年休？

中教審で答申された

「変形労働制」導入されたらさらにブラック化！？

たとえば忙しい学期末の2週間の勤務時間を8時半から18時とし、その代わり夏休みの2週間は8時半から16時までとする。平日の時間外勤務が減るように見せかけて、かえって長時間労働を助長することになりませんか。夏休みだって公務や研修が多く入っており、16時以降も時間外勤務なんてことになりかねません。子育てや介護で時間に追われる教員への救済の歯止めもありません。教員定数を増やし、煩雑な事務量を減らすことこそ、必要な「改革」です。名ばかりの「働き方改革」になりかねない「変形労働制」の導入には断固反対です。

私たち、そして未来の教職員と子どもたちのために、障教組への加入を強く訴えます！

☆☆ 2019年度県教育委員会の当初予算案を見る ☆☆

みだしの予算案が県議会に提案されました。高等学校における通級実施校が現在の9校から13校に増えるようで、これは嬉しいことです。しかし特別支援学校に関わる項目全体では、校舎老朽化や教室等設備不足、寄宿舍教員新規採用、教員増員など現場の切実な要求に応えるものは見当たらず、一方で「キャリア教育・就労支援推進事業」には12,172千円を計上（*）し、偏りがあると言わざるを得ません。「障害の多様化対応」として、各学校でPT,OT,ST相談などで有効に活用されてきた事業予算も見当たりません。新規事業（**）も第3次特別支援教育推進計画で力説された「縦と横の連携」を図る一貫ですが、調整に当たるコーディネーターや担任の負担増が心配されます。すべての子どもたちが安心してのびのびと学べる学校、私たちが安心して働ける学校を作るために、現場の声をもっと大きく届ける必要があります。

*

技能検定の運営について、今までは県の事務局が行っていましたが、次年度は会場校に、実質丸投げされようとしています。担当者のさらなる負担増は許せません。



**

「トライアングル」プロジェクト
予算額 2,800千円
学校と保護者と通所支援事業所
（放課後ディなど）との情報共有・連携強化のモデル事業導入

立場を利用したパワハラ・セクハラ事案や、本人の意向に沿わない人事異動を強引に進めようとする管理職など、嫌なニュースが相次いでいます。一人で抱え込まずに、相談してください。

困ったときは
組合へ！



春を迎える ごあいさつ

この春、定年退職を迎えられる先生方、再任用を終えられる先生方、本当にご苦労様でした。皆さんが初任だった頃、学校は養護学校義務制で一気に子どもたちが増えて、人手もないし（知的の小学部で重度の9人を2人の担任だったとか！）、支援も手探りで、奮闘されたことと思います。まだ障害の重い子が高等部に入れなかった時代でした。そこからの教育権を広げる高等部全入運動や訪問教育高等部新設の運動など、保護者とつながって中心的な活躍をされました。女性教員の切迫流産が当たり前だった時代、補助教員制度充実を勝ち取ってくださるなど、働きやすい職場作り、民主教育を守る闘いも続けてこられました。障教組も皆さんが立ち上げてくださいました。心からお礼を申し上げるとともに、これからもご支援をよろしくお願いします。そして後輩の皆さんも、この1年障教組の運動にご理解ご協力、ありがとうございました。次年度も、一緒にがんばっていきましょう！組合加入をお待ちしています！